

豪州：住宅・商業施設用の太陽光発電システム・リース・ ビジネスが始動¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

昨年12月、オランダに本拠地を置く Photon Energy 社は豪州で住宅・商業施設用の太陽光発電システムを顧客の初期設置費用負担なしで設置する新しいビジネスを開始した²。

サービス会社は顧客から長期間に亘って太陽光発電システムのリース料、または、発電量に応じた電力料金を受け取り、それによって設置費用を回収する。顧客が支払うリース料、または、太陽光電力料金は、グリッド電力を使用する場合の料金よりも安く設定されており、顧客は電力料金の支払い額を削減することができる。

このビジネスは2007年に米国のスタートアップ企業の Sunrun 社によって初めて開始され、その後、SolarCity 社、Sungevity 社、SunPower 社が同様のビジネスに参入した。これらの企業はカリフォルニア州、アリゾナ州、オレゴン州、コロラド州などで次第に顧客を増やし、近年、住宅部門での新規太陽光発電システムの大部分はこのビジネスモデルによって設置されるほどに成長している。同時に、このビジネスモデルが広い層に受け入れられたことによって、米国の住宅部門での太陽光発電設置量は急激に増加した³。

豪州は太陽光資源に恵まれており、2013年10月時点の累積太陽光導入量は3.2GWに達している。このうち90%以上は個人住宅のルーフトップ太陽光発電であり、既に10軒に1軒の割合で普及している⁴。豪州は個人住宅のルーフトップ太陽光発電に対する関心が高く、米国同様、初期設置費用負担なしに太陽光発電を設置することができるビジネスモデルの導入によって、今後、飛躍的に住宅、および、商業部門での太陽光発電の導入が増加する可能性が高い。

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² Photon Energy 社 Press Release 参照 <http://en.photonenergy.com/australia0>

³ U.S. Energy Information Administration (EIA) 資料参照
<http://www.eia.gov/todayinenergy/detail.cfm?id=12991>

⁴ クウィーンズランド州、ニューサウスウェルズ州の普及率はそれぞれ31%、22%に達している。自前で初期設置費用を負担できる富裕層の多くはルーフトップ太陽光を設置していると考えられる。

米国の Sungevity 社は 2012 年に豪州において太陽光発電システム・リース・ビジネスを開始⁵し、同じく米国の SunPower 社も同様のビジネスを豪州で開始した。中国の Trina Solar 社もその後を追っている。今般新たに参入した Photon Energy 社は太陽光発電システム設置サービスを提供する世界的な会社であり、米国で生まれた太陽光発電システム・リース・ビジネスモデルが豪州において発展する土壌ができたといえる⁶。

太陽光発電システム・リース・ビジネスモデルは分散型太陽光発電を飛躍的に増加させることができる革新的なビジネスモデルといわれ、世界中でその国の特性に合わせたモデルの開発・導入への取り組みがなされている⁷。今後、このビジネスモデルが世界各地に広がる可能性が高い。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁵ Forbes 記事参照「California's Sungevity Moves into Australian Solar Market」
<http://www.forbes.com/sites/toddwoody/2012/04/19/californias-sungevity-moves-into-australian-solar-market/>

⁶ “2014 Outlook: Let the Second Gold Rush Begin” (Deutsch Bank) 参照
<http://qualenergia.it/sites/default/files/articolo-doc/DBSolar.pdf>

⁷ 東芝プレスリリース「ドイツにおける太陽光発電の電力小売り事業への参入について」参照
http://www.toshiba.co.jp/about/press/2013_12/pr_j0401.htm